



検査内容変更のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のことと、お慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てを賜り、厚くお礼申し上げます。
この度、下記の検査項目の報告形式につきまして、日本臨床検査標準協議会にて推奨されて
おります報告表記へ一部内容を変更させていただきます。
先生方には大変ご迷惑をお掛けいたしますが、何卒ご了承のほど、お願い申し上げます。

謹白

記

- 検査結果の表記変更（⇒ 詳細は2、3ページを参照）

検査項目コード	検査項目名	総合検査案内 2022-2023 掲載ページ
38234	尿沈渣	74

変更日 2024年4月1日（月）受付分より

次ページに続きます

1



より正確に！
より迅速に！
地域に密着した検査体制
<http://www.city.gifu.med.or.jp/kensa/>

登録衛生検査所
一般社団法人
岐阜市医師会臨床検査センター
電話 058-255-1040

● 検査結果の表記変更 ●

● 尿沈渣

新たな表記方法に変更させていただきます。

現行表記との相違点

- 赤血球、白血球、扁平上皮細胞、円柱類について、日本臨床検査標準協議会(JCCLS) 尿沈渣検査法 GP1-P4 (尿沈渣検査法 2010) に準拠します。
(真菌、トリコモナス、精子、結晶・塩類は現行の表記で準拠しており変更はありません。)
- 「腎上皮細胞」は「尿管上皮細胞」、「移行上皮細胞」は「尿路上皮細胞」として報告します。
- 成分名がわかりやすいように報告書名称を変更し、「報告書名称と正式項目名一覧」を総合報告書の裏面に記載します。

【尿沈渣成績記載法変更内容】

分類	変更後	変更理由	現行
赤血球 白血球 扁平上皮細胞	<1 1-4 5-9 10-19 20-29 30-49 50-99 ≥100 個/HPF	JCCLS 法 GP1-P4 に 準拠するため	0-4 HPF 5-9 HPF 10-19 HPF 20-29 HPF 2+ HPF 3+ HPF
円柱類 ※「その他」に記載	1+ 2+ 3+ 4+ 5+		1+ 2+ 3+
その他上皮細胞類	尿管上皮細胞 (旧腎上皮細胞)	「その他」に 成分名のみを 記載	名称変更 に伴う記載方法の 見直し
	尿路上皮細胞 (旧移行上皮細胞)		
	円柱上皮細胞		
	細胞質内封入体細胞		
	核内封入体細胞		
細菌・粘液糸			
真菌 トリコモナス・精子 結晶・塩類 ※「その他」に記載	1+ 2+ 3+		同左

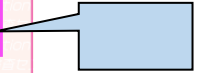
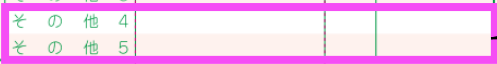
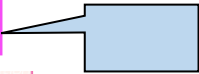
【尿沈渣 報告書名称と正式項目名一覧】

報告書名称	正式項目名称
エンチュウc	円柱上皮細胞
カクナイフウニュ	核内封入体細胞
ニョウサイカンc	尿細管上皮細胞
ニョウロc	尿路上皮細胞
フウニュウタイ	細胞質封入体細胞
RBC-CA	赤血球円柱
WBC-CA	白血球円柱
エンルイCA	塩類・結晶円柱
カリユウCA	顆粒円柱
シボウCA	脂肪円柱
ジョウCA	上皮円柱
ショウシCA	硝子円柱
ロウヨウCA	ろう様円柱
2.8DHA	*28-DHA 結晶

報告書名称	正式項目名称
CACO2	*炭酸カルシウム結晶
NH3Mg	*リン酸アンモニウム マグネシウム結晶
UANH3	*尿酸アンモニウム結晶
コレステロール	*コレステロール結晶
シスチン	*シスチン結晶
シュウサン	シュウ酸塩
ニョウサン	尿酸塩
ビリルビン	*ビリルビン結晶
リンサン	リン酸塩
シンキン	真菌
セイシ	精子
トリコモナス	トリコモナス
ランエンシボウ	*卵円形脂肪体

*の成分においては、「その他」に成分名のみ記載し報告。

臓	e - G F R	eGFR	表面参照	分類	項目名	結果	単位	基準値
電 解 質	ナトリウム	Na	mmol/L	138~145	比重	比重		1.005~1.030
	クロール	Cl	mmol/L	101~108	P	H pH		4.5~7.5
	カリウム	K	mmol/L	3.6~[5.4]	蛋白定性	蛋白		(-)
	カルシウム	Ca	mg/dL	8.8~10.1	糖定性	糖		(-)
	無機リン	IP	mg/dL	2.7~4.6	ウロビリノーゲン	ウロビリ		(±)
そ の 他	C K	CK	U/L	M 59~248 F 41~153	潜血反応	潜血		(-)
	アミラーゼ	AMY	U/L	44~132	ビリルビン	ビリル		(-)
	尿酸	UA	mg/dL	M 3.7~[7.0] F 2.6~[7.0]	ケトン体	ケトン		(-)
	鉄	Fe	μg/dL	40~188	白血球	白血球		(-)
	TIBC	TIBC	μg/dL	M 253~365 F 246~410	亜硝酸塩	亜硝酸		(-)
炎症免疫	CRP	CRP	mg/dL	0.14以下	赤血球	赤	/HPF	
RF	RF	IU/mL	15以下	白血球	白	/HPF		
抗streptリゾ	ASO	IU/mL	0~239	扁平上皮	扁平	/HPF		
凝 固 検 査	プロトロンビン	PT秒	秒	9.8~12.1	粘液系	粘液		
	プロトロンビン%	PT%	%	70.0~130.0	細菌	細菌		
	プロトロンビンINR	PT-INR		0.90~1.13	その他 1			
	APTT	APTT	秒	24.0~34.0	その他 2			
	フィブリノゲン	Fib	mg/dL	200~400	その他 3			
コメントは別紙参照				コメントは別紙参照				



2024年4月1日受付分以降の総合検査報告書見本 【裏面】

項目名	血液一般・血液像
白血球数	血液疾患、白血病を疑う時や治療の効果の判定、感染症、腫瘍の有無の推定をします。
赤血球数	貧血など血液疾患や感染、炎症、腫瘍などを疑う場合の診断や経過観察をします。
色素量 Hb ヘモグロビン	赤血球の中にある鉄分を含む蛋白質で、赤血球の赤い色素の事。肺からの酸素を全身に供給。多血症や貧血をみめます。
ヘマトクリット Ht	血球に含まれる赤血球の割合をあらわし、貧血の分類の指標となります。
MCV MCH MCHC	それぞれ赤血球、色素量、ヘマトクリットから算出され、各種貧血の分類の指標となります。
血小板数	出血を止めるための重要な働きをします。数や機能の異常は出血や血栓を来します。
血液像	白血球（好中球、リンパ球、単球、好酸球、好塩基球）の割合を表し、疾患に応じてその割合が変化します。

項目名	尿一般・尿沈渣
尿蛋白定性	健康人でも少量の蛋白を含んでいますが、糸球体や尿路に障害が起こると尿中にタンパク質が漏れ出てきます。
糖定性	健康人でも少量の糖を含んでいますが、糖尿病などで血糖値が上昇すると尿中に糖が出てきます。
ウロビリノーゲン	ビリルビンが変化したもので、健康人でも一定量排出され、(±)が正常です。急性肝炎の早期発見と経過観察に重要です。
潜血反応	尿に血液が混じっているかどうかを調べます。腎臓や尿管、膀胱といった尿路系に異常がある場合に陽性となります。
ビリルビン	健康人はビリルビンが尿中に出ることはありませんが、肝臓や胆道の病気になるると尿中に排泄され、陽性となります。
ケトン体	健康者の尿ではケトン体は検出されませんが糖尿病や絶食が続くと過剰に生産され陽性となります。
白血球	腎・尿路系の感染症や尿路結石などの炎症性病変の診断の指標となります。
亜硝酸塩	尿中に多くの細菌が存在すると陽性になります。腎臓、尿管、膀胱、尿道などの尿路系の細菌感染を調べます。
尿沈渣	尿中の有形成分を顕微鏡で観察することで、腎臓や尿路系の病気の種類や部位を推測します。

追加

【尿沈渣・正式項目名称】

報告書名称	正式項目名称	報告書名称	正式項目名称
28DHA	2,8-DHA結晶	シュウサン	シュウ酸塩
CACO2	炭酸カルシウム結晶	シュウCA	上皮円柱
NH3MG	リン酸アンモニウム マグネシウム結晶	シュウシCA	硝子円柱
RBC-CA	赤血球円柱	シンキン	真菌
UANH3	尿酸アンモニウム結晶	セイシ	精子
WBC-CA	白血球円柱	トリコモナス	トリコモナス
エンチュウc	円柱上皮細胞	ニョウサイカンc	尿管上皮細胞
エンルイCA	塩類結晶円柱	ニョウサン	尿酸塩
カクナイアウニュ	核内封入体細胞	ニョウロc	尿路上皮細胞
カリユウCA	顆粒円柱	ビリルビン	ビリルビン結晶
コレステロール	コレステロール結晶	アウニュウタイ	細胞質内封入体細胞
シスチン	シスチン結晶	ランエンシボウ	卵円形脂肪体
シボウCA	脂肪円柱	リンサン	リン酸塩
		ロウヨウCA	ろう様円柱

【e-GFR（糸球体濾過量）】

☆年齢、性別、血清クレアチニン値を用いて腎臓の働き(e-GFR)を算出します。

推算 GFR 値 mL/min/1.73m ²	≥90	60~89	30~59	15~29	<15
検査値のみかた	正常	GFR 軽度低下	GFR 中等度低下	GFR 高度低下	腎不全 透析期

詳細は「慢性腎臓病CKDのステージと診療計画」を参照して下さい。

項目名	検査の目的・検査値のみかた
血糖	血中のブドウ糖のことを言います。食後の経過時間によって数値が変わります。糖尿病発見のための検査で、疑いがあれば糖負荷試験やヘモグロビンA1c等の検査を行います。
ヘモグロビンA1c HbA1c	1~2ヶ月前の平均した血糖の状態をみるのに適しています。NGSP(国際標準値)での報告です。
総蛋白	膠質浸透圧の維持や生体の防御機能に関与しています。健康、栄養状態の指標となります。
アルブミン ALB	膠質浸透圧の維持や血中の様々な物質の運搬をします。栄養状態の指標となります。
A/G 比	総蛋白との組み合わせで、アルブミンの減少やグロブリンの増減から生体の異常をみめます。
ALP	肝臓胆道の疾患や骨疾患、悪性腫瘍などをみめます。
AST ALT	ASTは心・肝・骨格筋に、ALTは肝に多く含まれます。血中の濃度の増加から臓器の障害をみめます。
γ-GT	肝臓、胆道系疾患をみめます。アルコール、薬物などの肝臓への負担を早期に現します。
LD	特に肝臓や骨格筋に多く含まれます。血中の濃度の増加から障害をみめます。
総ビリルビン T-Bil	直接ビリルビンと間接ビリルビンの和を言います。黄疸があるときには直接ビリルビンとともに検査します。
直接ビリルビン D-Bil	総ビリルビンとの関係から肝臓疾患等の診断や黄疸の鑑別をします。
コリスチラーゼ ChE	肝臓で作られる酵素で、全身状態の把握や肝機能をみめます。
中性脂肪	動脈硬化の危険因子です。蛋白代謝や酵素の異常を来す疾患や糖、脂質代謝の異常をみめます。
総コレステロール T-cho	虚血性心疾患や脳血管障害など、動脈硬化性疾患の危険因子の状態をみめます。
HDL-c HDLコレステロール	動脈硬化の予防に必要なコレステロールです。善玉コレステロールと呼ばれます。
LDL-c LDLコレステロール	動脈硬化の原因になるコレステロールです。悪玉コレステロールと呼ばれます。
nonHDL-c	nonHDL-cは、計算式(総コレステロール - HDL-c)にて求められ、動脈硬化のリスクを総合的に評価します。基準値 150mg/dL未満
LDL-c/HDL-c比	動脈硬化の進展抑制・退縮の目標値として使われます。冠動脈疾患の発症予防では2.0以下、冠動脈疾患がある場合は1.5以下を目指すこととされます。
動脈硬化指数	動脈硬化の起こりやすさを表現し、計算式より求めます。基準値は4.0以下とされ、数値が大きいほど動脈硬化になりやすくなります。計算式(T-cho - HDL-c) / HDL-c
尿素窒素	クレアチニンとともに腎臓の状態、機能をみめます。
クレアチニン	尿素窒素とともに腎臓の状態、機能をみめます。
ナトリウム Na クロール Cl カリウム K	水分代謝、浸透圧などを調節して、身体の細胞の代謝や恒常性を維持しています。
カルシウム Ca	心臓の収縮、神経の興奮、意識の維持、各種ホルモンの分泌など生命活動に重要な役割を持っています。
無機リン IP	カルシウムとともに内分泌、骨代謝の異常をみめます。
CK	筋疾患、心筋梗塞を中心とした疾患をみめます。
アミラーゼ AMY	主にすい臓の疾患をみめます。そのほかに肝胆道や唾液腺疾患もみめます。腎障害でも増加します。
尿酸	血中の濃度が高くなると手足の関節腔や組織に沈着し、痛風となります。
鉄 Fe	色素の合成に利用されます。貧血の鑑別や肝疾患をみめます。
TIBC	鉄とUIBCの和です。貧血や各種の鉄代謝異常をみめます。
UIBC	鉄と組み合わせて検査をし、貧血などの病態をみめます。
CRP	炎症の状態をみる検査です。治ると早期に低値になるため、病気の経過観察に役立ちます。
RF 定量	慢性関節リウマチなどの膠原病をみめます。
溶血性連鎖球菌 ASO	溶血性連鎖球菌の感染に関連する疾患をみめます。

2024.3.130.000